

書評

赤塚光子・石渡和実・大塚庸次・奥野英子・佐々木葉子 著

社会生活力プログラム・マニュアル

一障害者の地域生活と社会参加を支援するために一

白野 明（れいんほう川崎）

わが国における、社会リハビリテーションの研究グループによる社会リハビリテーションの手引書である。著者らは、「社会リハビリテーションは社会生活力（Social Function Ability）を高めることを目的としたプロセスである。社会生活力とは、さまざまな社会的な状況の中で、自分のニーズを満たし、一人ひとりに可能な最も豊かな社会参加を実現する権利を行使する力を意味する。」というリハビリテーション・インターナショナルの定義を受けて、Social Function Ability を社会生活力と、また、社会生活力を高めるためのリハビリテーションを社会リハビリテーションと呼んでいる。

社会生活力の定義には、抽象的で難解な面もあるが、著者らの掲げたプログラムでは日常生活動作と職業リハビリテーションはあまり取り扱われていないので、それらの大部分を除いた社会生活上の技能、特に社会環境との関わり方についての知恵を意味するものと理解される。

本書では、医学モデルにおけるような専門職主導のサービス提供ではなく、援助者とサービス利用者との平等なパートナーシップと、当事者自身のエンパワーメントとを基本に踏まえた社会生活力プログラム

を掲げ、援助者と当事者用の二通りのテキストを用意するなど、当事者が主体的に参加するためのいくつかの方法を述べている。

生活モデルのリハビリテーションは、生活訓練、社会生活技術訓練、社会適応訓練、生活技能訓練（SST）、自立生活プログラムなどの名称で取り組まれてきているが、これまでは支援プログラムの体系化や、実施方法についてのマニュアルがなかった。本書は、プログラムの具体的項目を広範囲に抽出し、それらを系統的に配列しているのので、現在各地で行われている社会リハビリテーションの現場で、プログラムの組み立てや手順の整理など実務面での応用が可能である。また、プログラムを体系化することによってこの領域における共通言語ができるので、支援技術の向上に役立つものと思われる。

あとがきにもあるように、このプログラム・マニュアルは経験の積み重ねのうえで入念に作成されているが、なお試行と実践の積み重ねの中で完成度を高め、この領域のリハビリテーション技術の向上につながることを期待したい。

（A4 頁390 4,800円＋税 1999 中央法規刊）